

5月に収穫するダイコンのべたがけ栽培

～作業の省力と資材費の削減～

5月に収穫するダイコン栽培では、冬の気温が低い間は保温のためにトンネル栽培を行っています。これはダイコンが寒さに遭うと花の元（花芽）をつくる性質があるため保温をしないと収穫までに花が咲いて商品性を損なうためです。しかし、トンネルを設置する作業には、多くの労力とコストがかかっています。

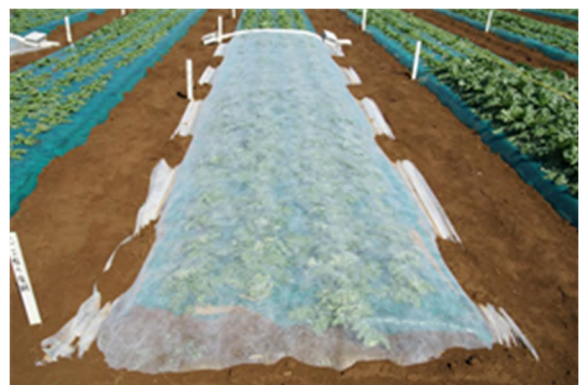
そこで、通気性のある不織布で直接ダイコンを覆うこと（べたがけ）で作業を楽にし、労力と資材費等を削減できる栽培方法を開発しました。

1 成果の内容

- (1) べたがけ栽培に適した、揃いがよく、病害に強く、とう立ち（花が咲くこと）が遅い品種を選定しました。
- (2) とう立ちを回避してべたがけ栽培できる種まきの時期は、2月中旬以降であることを明らかにしました。



トンネル栽培の様子



べたがけ栽培の様子

- (3) 「トンネル」を設置する場合に比べて、「べたがけ」の場合※では、作業時間は1/7程度、資材費は1/2となり、大幅に作業を省力化し、資材費も削減することができます。
※1作当たり、1重で被覆した場合による比較

2 普及の状況

銚子市及び旭市を中心に、5月中旬以降の収穫でべたがけ栽培が多く見られます。

3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 0479-57-4150

4 掲載年月 平成30年1月（令和5年11月更新）